

平成 30 年度 第 4 回防災勉強会 及び 第 14 回 IDPT 会議

開催日時：平成 30 年 11 月 18 日(日) 午後 4 時 00 分～5 時 30 分

場所：高尾台町会 会館 1 階

出席者：計 16 名

記録者：勝裕

■第 4 回 防災勉強会

講師：IDPT 出口 佳代氏（防災士）

テーマ：「出口家の家族防災会儀」

- ・まずは家族紹介 お手製のイラストを用いて
- ・我が家のルール 12 か条
- ・毎月 1 日は我が家の防災 Day
- ・171 の練習 特に子供たちが体験練習

家族会議の内容や日ごろの備えについて話される。

1 丁目 8 班 宮下さまより感想

「非常に感心しました、私は二人暮らしのため出来ないこともあるが、171 とはどんなものか？」

⇒災害伝言ダイヤルのこと

「安全ゾーンは玄関と決めている基準は？」

⇒玄関は柱があり、物も少ないので、災害時に比較的そのまま形で残っていることがあるため

■第 14 回 IDPT 会議内容

※別紙「第 14 回 IDPT 会議次第」参照

1、報告事項

「第 4 回向こう三軒両隣り防災懇談会」の実施報告 ※議事録参照

当日は民生委員の方にも参加していただき、安心安全な街づくりの仕組みについて意見交換できた

2、審議事項

■高尾台防災会活動の改善について（平成 31 年度 活動のしくみ及び組織の改善案）

12 月 16 日（日）の役員会に審議事項として提出して承認を得、平成 31 年度総会に提案したい
これまで防災懇談会や勉強会を通して得られた町会防災活動の実態を踏まえ、平常時において防災力強化活動を継続する「しくみ」及び「組織」に改善する必要性を痛感しての提案であることを理解頂きたい。

① 改善の方向性

町会の防災活動を高尾台町会の三大事業であるバーベキュー大会、盆踊り大会、社会体育大会と同様の位置づけとし、継続して活動する「しくみ」並びに「組織」に改め町会の防災力強化に繋げる。

② 具体的な改善内容（2点）

- (1) 従来の防災組織が「非常時の避難所運営組織」であることを明確にし、町会役員の中に新たに各班1名の防災委員を置き、三大事業と同じく年度毎に平常時の防災力強化事業を班単位で実施する事業計画と事業予算の中で実施、継続する改善を行う。
- (2) 平常時の活動は、年5回の防災会議と防災勉強会、丁目単位の年3回の向こう三軒両隣り防災懇談会並びに町会行事での防災訓練・啓蒙活動及び伏見台校下防災訓練への参加協力とする
「防災会議」町会長が統括し町会防災力強化に結びつける
「防災勉強会」IDPTが準備し毎回防災会議と同時開催する
「防災懇談会」各丁目副会長が統括し丁目防災班単位で開催、班単位の防災力強化を実現

③ PDCAをまわす役割分担 ※会議次第の図参照

役員会（PLAN）⇒防災懇談会（DO）⇒防災勉強会（CHECK）⇒防災会議（ACTION）を廻す
IDPTチームのサポート内容：

DO 伝えるチーム … 新年会、定時総会、バーベキュー大会でのPR・啓蒙並びに防災訓練
CHECK 知るチーム … 勉強会の企画、運営並びにニーズ、実態調査
ACTION つくるチーム … 防災会議の企画、運営並びに記録、マップ、マニュアルの作成

④ 具体的な変化は？ 組織を変える

- ・自主防災組織を町会組織に組み込む改定を行う
- ・第2回役員会（H30.12.16）で、防災活動を従来の町会活動に組み込む提案を行う
- ・役員に各班1名の防災委員30名を設け、丁目単位の年度計画に沿った防災力強化活動を行う
- ・防災委員は、防災丁目班長（丁目副会長）の下で、班長と力を合わせ、班内のリスク、世帯構成等に精通し班内の防災力強化を平常時に行い、非常時での対応に備える
- ・上記の改善に伴い「自主防災規約」を高尾台町会「防災活動方針」に改め、修正を提案する
- ・防災活動方針により、新たに防災委員となる方が組織と自らの役割を理解することが重要である
- ・上記の改善によりIDPT会議は、町会長が統括する「防災会議」に名称変更し一本化する
- ・IDPTメンバーは、従来通り公募で募集し町会長を補佐するスタッフとして防災知識・経験を町会内に蓄積する役割を担う
- ・運営はその活動により非常時の「避難所運営組織」と平常時の「防災力強化活動組織」で行う
- ・事業計画（案）に添って、防災関係の会議や懇談会等の開催時期の説明（添付資料参照）
- ・12月の役員会で提案・承認後、3月の総会で町会員に承認を得てからの組織編成となる
- ・以上はあくまでも案である、今皆さんの意見をお聞きしたい

質疑応答・意見交換

- ① われわれ IDPT メンバーは防災委員ということか？
⇒ 防災委員ではない、従来通り公募で募集し町会長を補佐するスタッフとして防災知識・経験を町会内に蓄積する役割を担い、活動形体においては、前述の PDCA 廻す役割の通りである
- ② IDPT メンバーは防災委員を兼ねても良いのか？
⇒ 兼ねても良いのではないかと それぞれ班の事情はあると思う 上手くまとめられる方も居る
- ③ 防災委員は 1 年と言わず、フットワークがいい人に長くしてもらってもいいのでは？
⇒ 任期は 1 年だが、再任していただいても構わない（班長とは兼任は出来ない）
ただ、なるべく多くの人に防災委員として経験してもらおうほうが良いという側面もある
- ④ 選出の責任者は誰？
⇒ 責任者は副会長である
- ⑤ 新しく防災委員になった方に、活動内容がわかるものがあればいいが？
⇒ 「防災活動方針」に書かれてある内容と思ってほしい（町会行事には出席必須）
- ⑥ 一体感が出てきて非常に良いと思う
- ⑦ 除雪活動にも活かせる様な委員になってほしい
- ⑧ IDPT の役割と防災委員の役割がどう違うのか？
⇒ 班単位の活動を強化のため防災委員を選出した。IDPT メンバーはアシストメンバーとして、これまでで行ってきたことと一緒なことを行っていく。
- ⑨ 防災委員は各班に 1 名となっているが、世帯数の多い班など 2 名置いてもよいか？
⇒ その班で話し合いをして、班をわけるか、防災委員を 2 名にするかを役員会に提出して欲しい。
これからコミュニケーションがより図られるようになれば、そのような意見もでやすくなるのでは。そのような土壌を作って欲しい
- ⑩ 理想的な案だが、役員賛同は得られるのあか。反対意見もあるかもしれない
⇒ 今がまさにその段階、まずは IDPT メンバーに意見を伺っている
- ⑪ 班の編成について（⑨の設問）は 班の世帯数が少ない場合も考えていきたい
- ⑫ PDCA の役割分担のところにあるように実施月の調整は必要ないか？
⇒ あくまで計画段階で話していること、実施に関して必要に応じて対応したい

以上

生きた自主防災高尾台

Independent Disaster Prevention Takaodai

第14回会議

平成30年(2018年)11月18日(日)

会議:16時30分~18時00分

◆報告事項

「第4回向う三軒両隣り防災懇談会」実施報告

第4回懇談会の目的:

防災アンケート結果を共有し、町会内の危険箇所、十分とは言えない家庭の備え、要支援者の存在を知り、具体的な安全・安心なまちづくりのしくみを班長の皆さま、民生委員の皆さま、町会副会長・役員の皆さまと考えます

出席者:片岡会長・副会長(1丁目田形・2丁目越野 各氏)・民生児童委員(1丁目中西・2丁目中村・3丁目兼盛 各氏)・班長(1丁目5名・2丁目7名・3丁目6名) IDPT(17名) 合計41名

内容:(添付議事録参照)

意見:(抜粋)

1. 65歳以上の一人暮らし、二人暮らしの方の情報を把握している。
1. 毎月一人暮らしの方の家へ3回/月回っている、台風の時も回った。
1. まずは一人暮らしの方は知らない人へは警戒心があるだろう
1. 家具転倒防止対策の費用面の問題あり、民生委員の仕事も多岐にわたっている、そういうところは気になるところ
1. 町会の予算とする場合は「先着〇名」、補助率を設ける、補助上限額等の仕組みがあっても良い
1. 防災費用として町会の予算はあり、費用支出についてこれから検討する。高尾台町会の予算規模からすると対応できるのではないか。
 1. 費用が町会から出るのであれば前向きに進めていけばよい現実化に向けて考えてみてはどうか
1. 家具転倒防止は民生委員に協力依頼するのは難しいのでは、班長が町会費集めの際に、対象のお宅にだけ、チラシでお知らせすることから始めてはどうか
1. 要配慮者の情報について、班単位でも把握してほしい。防災の観点からするとその情報が重要
1. 各班に「防災」というグループを結成してはどうか
1. 会館を避難所として開設した際はショートメールでお知らせがあってもいいのでは
1. 非難した方は、玄関に「避難済み」とぶらさげ 無事を知らせる「しくみ」があれば
1. 除雪について 自分のうちの前を先ず除雪、その次に向こう三軒の範囲の協力

◆ 審議事項 :

1. 高尾台防災会活動の改善

1. 改善の方向性

高尾台町会の三大事業であるバーベキュー大会、盆踊り大会、社会体育大会と同様に防災活動を位置づけ、継続して活動する「しくみ」に改め、町会の防災力強化に繋げる

2. 具体的な改善内容

(1) 従来組織の位置づけは「非常時の避難所運営組織」であることを明確にし、平常時の活動は三大事業と同じ高尾台町会内の防災力強化活動として年度毎の事業計画と事業予算の中で実施、継続し、定時総会において事業報告、決算報告を行う「しくみ」に改め、12月16日開催の役員会の理解が得られれば平成31年度定時総会から実施

(2) 平常時の活動は、年5回の防災会議と防災勉強会、丁目単位の年3回の「向う三軒両隣り防災懇談会」並びに町会行事での防災訓練・啓蒙活動及び伏見台校下防災訓練への参加協力とする

防災会議 : 町会長が統括し、防災に関わる「知る・つくる・伝える」を具体化し防災懇談会を経て町会防災力強化に結びつける

防災勉強会 : 防災知識を得ることを目的にIDPTが準備、毎回防災会議と同時開催し町会の防災力を高めることに資する

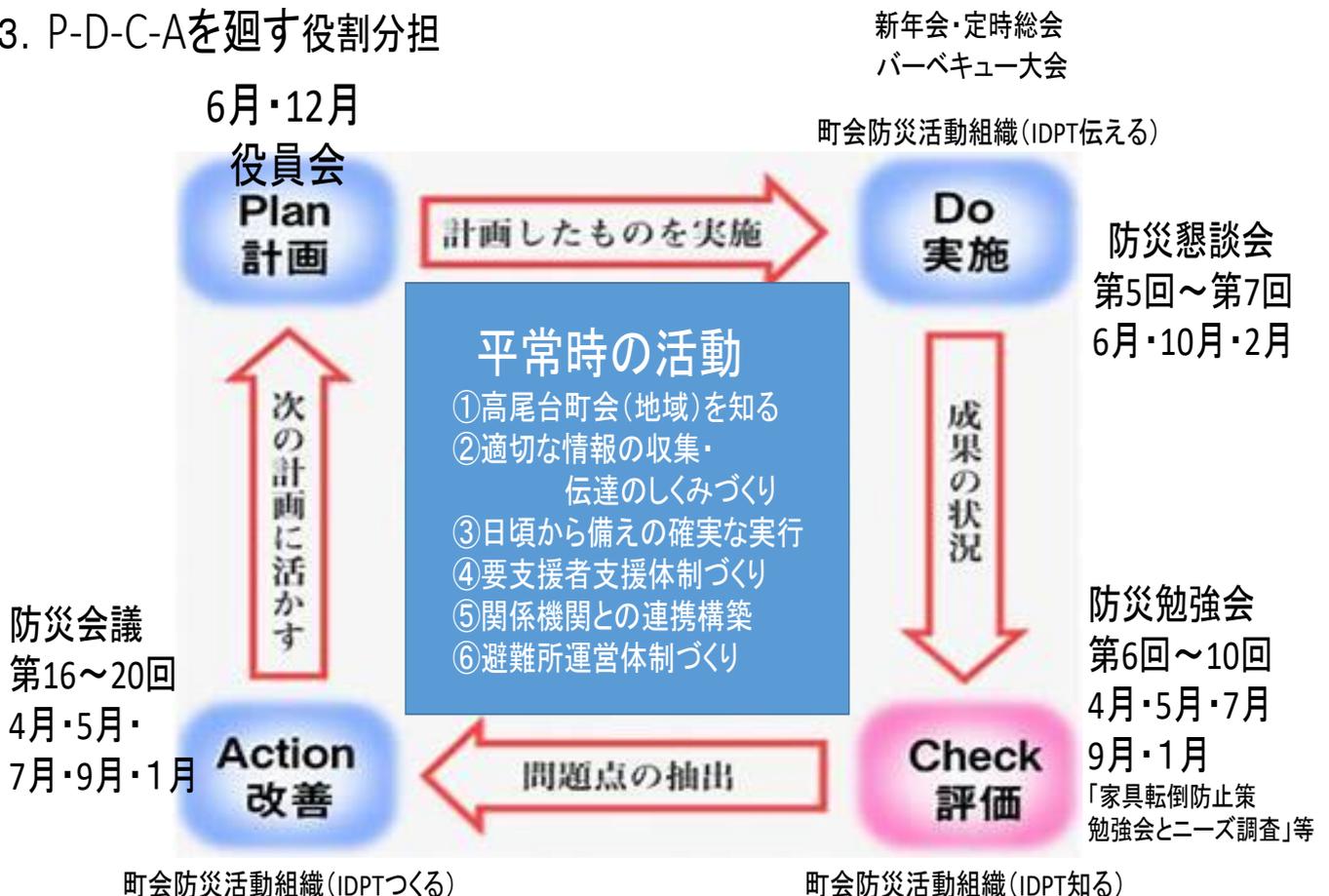
防災懇談会 : 各丁目副会長が統括し丁目防災班単位で開催し、町会班単位での防災力強化を実現する

注1. 丁目班毎の防災懇談会は、32年度から丁目班長と班防災委員対象にいずれの丁目も6月開催を目指す

注2. 上記防災懇談会の後を受け、町会班単位〇丁目〇〇班防災懇談会が定期開催されることを目指す

注3. 伏見台防災会が主催する防災訓練は、町会で受け、会員の皆さまと避難所運営組織で参加する

3. P-D-C-Aを廻す役割分担



3丁目117-1出口 私たちこんな家族です！

出口佳代 (42歳)

- ・金沢市出身
- ・血液型A型
- ・性格 几帳面なサザエさん
- ・趣味 ①洋裁
②めだか
③掃除・片づけ
- ・好きな食べ物 甘いもの、お肉
- ・持病 なし
- ・職業 派遣社員 (フルタイム)
- ・勤務地 本多町

賀之 (43歳)

- ・金沢市出身 (富樫小→高尾台中)
- ・血液型 A型
- ・性格 まじめ
- ・持病 なし
- ・職業 会社員 (機械製造業)
- ・勤務地 打木
- ☆父・弘伸 ラジオ体操

栞 (12歳)

- ・血液型 O型
- ・性格 のんびりマイペース
- ・錦丘中学校 1年生
- ・絵を描くのが好き

裕也 (9歳)

- ・血液型 A型
- ・性格 要領がよい
- ・伏見台小学校 3年生
- ・ゲーム大好き

出口家ルール

1. まず自分の命を守る 頭と首を守る
2. 我が家の安全ゾーンは玄関 小さな揺れで玄関へ避難
3. 家族が離れ離れの時に災害が起きても探さず、安全な場所へ避難。
4. 自宅から個別に避難場所へ行く際は、行き先メモを残す
5. 避難時ブレーカー落とす(落とし方練習)
6. 避難場所は高尾台中学校
7. 子供達の引き取り担当
 - ① おばあちゃん
 - ② おじいちゃん
 - ③ おかあさん
8. 連絡手段は171、スマホ充電フルにしておく
9. 毎月1日は我が家の防災Day
 - ・171の練習…子どもは練習しないと使えません
 - ・少しの時間水と電気使わないで過ごす…長時間はきびしいです。
 - ・非常食の試食…食事作らなくてよいので助かります♪

10. 避難経路確保

床に物を置かない。不要な物をため込まない。

11. 備蓄品は日常備蓄

日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入しておく

・備蓄1 生活用品(日常使うもの 多めにストック)

ラップ、ポリ袋、アルコール消毒液、トイレトーパー、

ティッシュ、カセットボンベ、使い捨て手袋、カイロ、etc

☆オール電化の我が家はカセットコンロとボンベ必須

・備蓄2 食品(日常使うもの 多めにストック)

飲料水、無洗米、乾物、パスタ、レトルト、缶詰、お菓子、

青汁、野菜ジュース、etc

・備蓄3、災害用

簡易トイレ、懐中電灯、乾電池、手回し充電式ラジオ

12. 非常持ち出し袋一人1個

必要最小限

安全ゾーンの玄関に保管

① まずは自分の命を守る

大地震が発生した場合、

地震の強い揺れで物に頭が直撃すると、負傷したり命を落とす可能性がありますので、頭と首を守る。また、物が落ちてこない場所に移動することと決めました。

キッチンにいる時であれば、冷蔵庫や電子レンジなどの大きく重い家電の転倒や落下。棚からの物の飛び出し、調理中の熱い釜、包丁、食器などの割れ物などが散乱するキッチン地帯です。小さな揺れですと避難することとしました。

寝室で寝ている時なら、うずくまって枕や布団で頭を保護する。トイレ、浴室では閉じ込められて避難できなくなるおそれがあるので揺れを感じたらドアを開けることとしました。

揺れが収まったら、ケがをしないようにスリッパやくつをはくこととして、リビングにはスリッパ、寝室にははかなくなったくつを置いてあります。また、懐中電灯も目に付く場所に置くことにしました。

万が一、部屋に閉じ込められたり、身動きできなくなった場合、大声を出し続けると体力を消耗するので、硬い物をたたいて大きな音を出して自分が屋内にいることを知らせることとしました。

- ② 我が家の安全ゾーンは玄関
地震速報や小さな揺れで玄関避難
ドアを開けて避難経路確保.

玄関は家具がなく、外への避難もすぐにできる為、わが家では玄関を安全ゾーンとしました。

地震速報や小さな揺れで玄関避難するのが理想です。

ごくわずかな揺れで、玄関

逃げてドアを開けるくせづけをしていけばいつもは空振りでも

いざという時、命を守れる行動がとれるのではないかと思います。

時々、私がとつぜん「あっ地震!!」とさげむす。(小さな揺れ
おそれながら)

そのひと声で頭と首を守りながらみんなで玄関に走ります。

これは、我が家なりの避難訓練ですが子どもたちはこの避難訓練が好きで、頭と首を守りながら玄関まで走り、ドアを開けて避難経路確保という一連の行動をちゃんとやってくれます。

玄関が安全ゾーンであるために、割れる可能性のある飾りを置くのはやめました。

玄関にある作付けの収納には耐震ラックが付いていますが、

念のため重い物や割れ物は入れず、万が一落ちてても

危険でないものだけ収納することにしました。

玄関までの避難経路には何も置かないようにしています。

- ③ 家族が離れ離れの時に災害が起きても探さない
各々安全な場所へ避難。

朝、晩であれば家族4人で自宅にいる可能性が高いですが、
平日の日中は学校、会社でみんな別々に過しています。
子どもたちが学校にいる時であれば先生の指示に従って
避難することができますが、私が一番気がかりなのが、子ども
だけで家に留守番している時に災害が起きた時のことです。

万が一親が不在の時に災害が発生した場合でも、まずは
自分の命を守ることを最優先とします。

家にいられる状態であればむやみに行動を起こさず、備蓄
してある食品や水を食べて、親の帰りを待つ。

自宅にいれる状態であれば行き先メモを残して避難場所
へ行く。としましたが、恐怖を体感した直後に物が散らかし
て、まっくらな部屋の中で、子どもだけで適確な判断が
できるとは思えません。

さらに

近くにいるおじいちゃん、おばあちゃん、それよりすぐそばの
ご近所の方に安否確認していただき、避難すべきであれば
避難所まで一緒に行ってもらえると、すごくありがたいです

その逆もあり、自分が自宅にいる時であれば、ご近所の
安否確認や助けも必要だと感じます。

④ 自宅から個別に避難所へ行くときは行き先メモを残す。

もし、避難所へ行くことがあれば「行き先メモを残す。」と決めましたが、もちろんそんなよゆうがなければ、すぐに避難することと伝えています。

⑤ 避難時はブレーカーを落とす。

地震で倒れた物のなかに、スイッチが入った状態の電化製品があると通電火災のおそれがあります。

子どもたちにはブレーカーを落とせば電気が通らないことを教え。

ブレーカーを落とす練習をしました。練習といってもメモを引くだけなので簡単にできました。 ^{ぶんぶん}がっている

⑥ 避難場所は高尾台中学校。

自分の目と耳で確めた情報をもとに、避難するしおりを
決めますが、自宅の安全が確認できれば在宅避難が基本です。
避難が必要なときは、外出中の家族のために安全靴を残り、
ブレーカーを落として非常持ち出し袋を持って避難します。

⑦ 子どもたちの引取り担当

毎年、年度初めに非常時の引き渡し担当を記入する紙が
学校から配られ記入し提出しています。

優先順に複数名記入できるようになっています。

8月までは近くで働いていたので優先順位は

私→おばあちゃん、おじいちゃんとしていましたが、9月から本町で
働いていますので、

非常時、すぐに迎えに行くことは
むずかしいため優先順位を変更して、

主人の母→主人の父→私の順にしました。

おばあちゃん おじいちゃん

⑧ 連絡手段は171.

私と主人はスマホで連絡を取り合えますが、子どもたちは、携帯もスマホも持たないため連絡手段は171としました。

毎月1日、15日に体験できます。

実際に体験してみると、中1の長女はアタウンスを理解して簡単にできますが、小3の長男は「言ってることが分かん」と言うので、これからも体験日に練習して慣れておく必要がある。

いつ起きるかわからない災害のため、スマホは、いつでもフル充電を心がけています。

⑨ 毎日1日は我が家の防災day.

家族で防災を意識する日として毎月1日を我が家の防災day
としました。何をするかといいますと、1日ですので、171の練習を
すること、少しの時間だけ、水も電気も使わずに過してみること、
非常食の試食です。

電気も水も使えない生活を経験したことがないので30分程度で
あっても、エアコンが使えない、テレビが見れない、手も洗えない
暗くて見づらいというのがとても不便に感じます。
ろうそくの明りだけというのにもおには雰囲気があるのかなど
思いましたが暗すぎます。灯りはないと困るので懐中電灯とは別に
ライトを購入しました。

非常食の試食について

非常食として備蓄してあるものは缶詰やレトルト食品が多い
ですが、試食してみると、好みでないものが意外とあります。
試食を繰り返して家族の好みのものだけストックすれば、
普段も好んで消費できるので賞味期限切れにならず、
いざという時も好みの味を食べることが出来ます。

⑩ 避難経路確保のため、床に物を置かない。
不要なモノをためこまない。

ドアや避難経路をふさがないように家具のレイアウトを工夫しました。部屋の出入口やろう下には何も置きません。
できるだけそなえ付けの戸相に収納するようにしています。
寝室は家具を一さい置かず、畳に布団のみですが、
枕元に懐中電灯、めがね、くつを置くことにしました。

元々、

物が少なくスッキリした状態が好きですが、家族4人生活していると、徐々にモノが増えていきます。

たまに家の中を見渡して不用品があれば処分したり、モノの配置をかえます。

いつでも家中スッキリが私の理想ですが、それがいっしょく、
命を守ることにつながるように思います。

(11) 備蓄品は日常備蓄

わが家の備蓄品は日頃利用している食料品や生活必需品を
多めにストックしておく日常備蓄です。

日頃使用するものばかりなので、手に入りやすく、求めやすい値段の
ものなので白二リングアウト・サイクルを継続することが出来ます。

<生活用品>

ラップは毎日よく使うアイテムですが、災害時も、ケガを
した時の患部の保護や、寒い時に新聞紙をお腹に
巻いた上からラップを巻きつけると体温を逃すことなく保温
できます。

食器も簡単に洗えない断水時、ラップをかぶせた食器で
食事をすれば食器を洗わなくて済みます。

カセットコンロ、ボンベ...これからの時期、金儲をするのに
大活躍ですがオール電化のわが家では必需品。

ポリ袋はサイズも様々ですが、小さいものは手袋代わりに使ったり、
ラップと同じく食器にかぶせて使用すれば洗い物を減せます。
また、耐熱のものであれば、材料をポリ袋に入れて金鍋に投入
すれば金鍋を汚さずにごはんがたけたり、煮物やむしパン
なども作れます。

大きいサイズは清潔に水を運ぶために使用したり、

ポリ袋の中に新聞を入れてトイレとしての使用もできます。

★非常時にまずい物は気がめいるので元気のためにおいしいと
思えるものを用意しておきます。すぐに食べられる物ももちろん
必要ですが、多くの調理器具を使わずにできるレシピも活用したいです。

~~役に立ちます。~~

<災害用>

簡易トイレ... 普段使わないので、いざという時のために練習が必要です
多機能ラジオ... 機能が太多いので、普段使いで、使いこなせる
ようにしています。

災害が起ったあとも、自宅で生活する在宅避難ができれば
何かと不自由な避難生活に比べて安心感があるように見えます。
日常備蓄ができれば、1週間程度の在宅避難が可能な状態に
しておきたいと見えます。

非常持ち出し袋は1人1個。

必要最小限のものを入れて、安全ゾーンの玄関収納内に
保管してあります。